



たかだか、お城下市。日本一のお城下市。高知城の追手門からまっすぐ東へ延びる追手筋は、クスの木とフェニックスが揺れる南国情緒満点のメインストリート。日曜市は、大胆にもその片側2車線を占拠して差支なく開かれます。日曜市は、大胆にもその片側2車線を占拠して差支なく開かれます。全国にさまざまな街路市がありますが、終日路上で開かれる市としては日本一の規模を誇ります。市が誕生したのは江戸期(元禄3年〜1690年)。土佐のお殿様が定めた「市立」に始まり、庶民の生活を支えてきました。長い歴史を生きてきた、300年以上の人口30万人余りの地方都市に、その規模、歴史とともに、これほどのスケールを誇る街路市があるといつては、ほとんど奇跡に近いのではないだろうか。うてまくりのおぼちゃんたの夢と元気を情熱をいどころに、今日も約1万2千人の人出て賑わいます。

sunday market history

日曜市の今昔

江戸時代、元禄3年に、土佐のお殿様が定めた街路市。高知の街路市は、江戸期の元禄3年(1690年)、土佐藩第四代藩主山内豊昌公が藩政として場所と自取りを定めて市立を認めたとに始まるとされています。土佐の郷土史家である故尾道雄氏の調査により、山内豊昌が元禄3年3月に制定した藩法「元禄大目目」に、「市日、毎月9日(日新市町、7日、22日)連泊町、12日(日新市町)」と記されていることが明らかになりました。

豊昌が定めた日切りの市が、現在のような「曜市」としたのは、明治9年(1876年)からと、日本の太陽暦採用後、高知も曜市の日切りの市をとり、本町筋現在の電車通りで開かれたのが「日曜市」の起源とされています。

▲明治時代の日曜日(本町1〜2丁目)。現在の電車通りに立つ日曜市の風景で、現存する市の写真では、最も古いものです。

街路市

日の出から日没1時間前まで。ふだん着の土佐に出会えます。

- 場所:上町4〜5丁目 ●出店数:37店
- 延長距離:248.5m

高知市の中心部を東西に走る電車通り、その上町4丁目から一つ南に入った通りに火曜市が並びます。この通りには幅2mほどの水路が東西に流れており、この水路に戸板を渡しての出店です。買い物とともに周りの歴史ある風景も楽しめます。

木曜市

- 場所:県庁前 ●出店数:75店
- 延長距離:278.5m

高知市を東西に走る電車通りと高知県庁からの南北道が交差する「県庁前」。そこから南へと木曜市が並びます。県庁や市役所の官庁やオフィスビルが立ち並び好立地から、日曜市に次いで人気が高く、手軽な昼食や晩ご飯の食材を買い込んだりする姿も見られます。

金曜市

- 場所:愛宕町1丁目 ●出店数:27店
- 延長距離:233m

愛宕商店街の南北の通りを北へ向かうと、前方を東西に横切るJRの高架が見えてきます。金曜市は、この新しくきた高架下に店が並びます。古い住宅地に隣接していることも多く、買い物客の多くは地域の住民で、出店者たちとも長い時を重ねた絆でつながり結ばれています。

日曜日住所録

1丁目から7丁目まで日曜日各店ごあんない

高知城通り
6丁目南
6丁目北
大橋通り
7丁目
5丁目南
5丁目北
中の橋通り
4丁目南
4丁目北
堀詰通り
3丁目南
3丁目北
グリーンロード
2丁目南
2丁目北
廿代通り
1丁目南
1丁目北
駅前電車通り

高知城
追手筋
鏡川
高知駅

高知駅→平成28年6月1日現在

日曜日てくてく見て歩きMAP

日曜日開催日…毎週日曜日
●夏時間(4月~9月)5時~18時 ●冬時間(10月~3月)5時30分~17時
※出店の準備及び片付けの時間を含む
※1月1・2日、8月10~12日は休み

日曜日へのアクセスは路面電車が便利。日曜市を楽しんだ後は、周辺の観光名所も楽しんでね。

●高知城 ●山内一豊の妻と名馬の像
●龍馬の生まれたまち記念館 ●路面電車
●大橋通り商店街 ●ひろめ市場
●帯屋町商店街 ●はりまや橋

高知市産業政策課

TEL 088-823-9456 FAX 088-823-9492

高知市サイト…<http://www.city.kochi.kochi.jp/>

E-mail: kc-150600@city.kochi.lg.jp

2016.6.1 / 30.000部

